

大崎八幡宮

大崎八幡宮は、江戸時代（1603-1867）初期の侍の美学が体现されており、富と権力、そして洗練された文化の華々しい象徴として創建された。この神社は、大名・伊達政宗（1567-1636）の命により創建され、伊達家の守護神である神道の軍神・八幡様が祀られている。建設は日本各地の最も腕の優れた職人達に依頼され、完成まで3年（1604年～1607年）の月日を要した。神社の本殿は国宝に指定されている。

権力の象徴・至高の芸術作品

本殿は、金箔押や色鮮やかに塗られた彫刻の数々で絢爛豪華に装飾されている。入母屋造の屋根中央にカーブを描くように広がる軒には、金箔が施された長寿の象徴である一對の鶴が飾られている。また、軒下は虎や鳳凰など様々な吉祥の動物たちや、空を舞う天人などで装飾されている。入り口上部の軒天からは、金箔が施された一對の猛々しい龍が、爪をだし舞降りるように現れている。大崎八幡宮の装飾は、伊達政宗の黒の鎧を想起させる黒漆塗りの木造により、さらに際立って見える。

神社への参道

神社への参道は、急な登りの石段から木々に囲まれた石畳へと続く。訪れた人々は本殿へ辿り着くまでに三つの鳥居を潜る。一つ目と三つ目の鳥居は朱色に塗られており、大きな木製の額に「八幡宮」という略号が書体で彫られている。最初の漢字（八）は簡単な2画で構成され、八幡の神の使いである一對の鳩に模して描かれている。

仙台への西の玄関口

大崎八幡宮は仙台市街地の北西、城下町への西の主要な玄関口の役割を果たしていた峠の麓に位置している。公家や、京都の朝廷から訪れたその他の重要な来訪者、江戸（現在の東京）の幕府関係者などは、仙台に到着する際にこの神社を通ったことだろう。

伊達政宗と大崎八幡宮

伊達政宗（1567-1636）は、日本で最も伝説的な侍の一人であり、優れた戦術家であった。

1,600年の関ヶ原の戦いでは、徳川家康（1543-1616）の勝利に貢献し、その結果、何世紀にもわたり絶え間なく続いていた内乱に終止符が打たれた。勝利を得た家康は、250年にわたり続く平安の世を築いた軍事政権、徳川幕府（1603-1867）を開いた。